

『すきだっちゃ せっけん!のぞいてみっぺし 東北の海』

2023 シャボン玉フォーラム inみやぎ 報告

【3年ぶりの実開催】

「せっけん運動ネットワーク」が毎年開催しているシャボン玉フォーラムが9月30日に宮城県仙台市で行われました。コロナ禍で中止、オンライン開催などが続き、せっけん運動ネットワーク代表幹事高橋千佳さんは「今年は3年振りに対面で開催できました。とても嬉しい。」と挨拶されました。

【オープニングは“仙台すずめ踊り”】

お揃いの赤い法被にピンク・緑の裏表の扇子を手に、お囃子に合わせた賑やかな明るい踊りでした。



【基調講演】

基調講演は「青い地球の生命の物語」と題して、水中写真家・鍵井靖章さんのお話でした。人懐っこいアシカ、大きなジンベエザメ、コミカルなマンタなどの写真。その中で、魚網を被ったアシカ、輪っかのようなものが口に引っかかって取れなくなっているサメ、目のところにイカを釣る疑似餌が引っかかっているハリセンボンなどにも出会うそうです。「サメの輪っかは怖くて取れなかった。おそらくもう餌を食べられないだろう。」と悲しそうにお話されました。

インドネシアや日本の瀬戸内などで見た海岸に打ち寄せるゴミの塊。その塊は潮の流れであちこち移動している。そんな海で生き物たちはガラス瓶やアルミ缶を棲家にしたり、卵をうみつけたり「海洋ゴミと生き物が寄り添って生きている。どうしたらいいかわからない・・・」まずは、ダイビングの後に仲間にゴミ拾いを呼びかけると、待ってました!とばかりに大勢が付き合ってくれたそうです。

また、鍵井さんは震災後、東北に通い続け、海の写真を撮り続けてきました。海底に沈んだ車が年々どんどんバラバラになっていく。震災直後はいなかった魚がしばらくすると戻ってくる。震災10年後の写真はとても美しかったです。「他の海ではこんな色彩はない」そうで本当に絵の具をぶちまけたようなカラフルな写真でした。鍵井さんの海の生き物に対する限りない優しさを感じました。



「重茂の津波は青かった」

【パネルディスカッション】

講演の後、重茂漁業協同組合、(株)アード・ブレン、あいコープみやぎ石けん環境委員会の報告があり、3団体の発表者と鍵井さんによるパネルディスカッションがありました。

重茂の美しい海と資源を残すために47年前に始まった“合成洗剤追放運動”。「重茂の津波は青かった」震災時の重茂の写真はテレビで見たのと違い、ほんとに綺麗な真っ青な津波でびっくりしました。悲しいことに60人が津波で亡くなられたそうですが、「青い津波は憎き大津波であると同時に、私たちの誇りとなりました。」とおっしゃっていました。隣の宮古湾は真っ黒なヘドロの津波で被害に遭われた方は窒息状態だったそうです。

さらに、重茂の合成洗剤追放運動の話がすごかった。各家庭を訪問して合成洗剤を置いていないか、家中隈無く戸棚や引き出しを見て調査したそうです。「あの頃だからできたこと。今じゃできないね」と笑ってらっしゃいました。

環境委員会 岩崎加代子